

課題を実行する上での注意

- rand(), srand(), srandom()など一様乱数の発生に**既存の関数**を用いないこと: 一様乱数作成も**課題**.
- **10万次元の配列**などを絶対に用いないこと: 不要であり**メモリの無駄**. 大規模データを扱う際の基本.
- ヒストグラム(頻度分布グラフ)への頻度値の格納の際に, **100回ループしたif文**や**else if文**を使わないこと: **計算量の無駄**
- 同じ10万個のデータに対して, 平均, 分散, ヒストグラムを作成する: 当然ですが, **個別に10万個ずつ発生**させて計算したレポートがあり, それは**誤り**です.

以上の注意事項に反するレポートは, 大きな減点です.

プログラムを実行する上での注意

log()やsqrt(), sin(), cos()といった数学の関数を用いる場合は, それを含んでいるヘッダファイル math.h をincludeする必要があります.

つまり, プログラムの冒頭で

```
#include <math.h>
```

と書き, コンパイル時には

```
% gcc -lm program.c
```

という(マイナス エル エム)オプションが必要です.